

「滝山病院事件」その後から考える 生活保護の役割とは？

10月20日 (Sun) | 13:30-16:00

昨年の滝山病院事件に関する報道に多くの方が衝撃を受け、精神科入院患者の“人として生きること”の意味と支援の有り様について考えさせられました。国や東京都の改善命令により、事態の改善が進むと思われていましたが、本年6月にNHKで放送された滝山病院のその後の状況は、希望しても進まない退院の実態と課題を突き付けられました。

生活保護を利用されている入院患者の方々への対応を、福祉事務所・ケースワーカーはどのように取り組むのかをあらためて考え合い、入院患者のみならず施設入所者等にも通じる“地域で生活する”ことの視点を豊かにする機会としましょう。

- 滝山病院事件の取材を通して、精神科病院、行政について考えること・提言
持丸彰子さん (NHK大阪 ディレクター 滝山病院を継続取材)
- 精神科病院から退院を促進させるための視点と社会資源の解説
横山秀昭さん (横浜市・NPO法人大地の会)
- 生活保護を始め行政として退院支援を促進するための強み・弱みと今後の方向性
前澤友紀さん (大阪狭山市)
- 意見交換 (質疑応答含む)



参加申し込みは
当会ホームページ
または
QRコードから

対 象：どなたでもご参加いただけます
参加費：会員無料 / 非会員500円

参加費振込先 ゆうちょ銀行
支店名「00八(ゼロゼロハチ)」 口座番号「2925936」
名 義「全国公的扶助研究会」 種 類「普通」